

2024年スプリング・インターンシップテーマ一覧

テーマNo.	教員氏名（職名）	日程	実施場所	定員	テーマ名	研究内容	研究室URL等
1	狩野泰則（准教授） 小島茂明（教授）	3月29日（金）から31日（日）までの3日間	大気海洋研究所（柏キャンパス）	6名	超深海動物の分布を探る	水深6500m以深の超深海にみられる底生動物（ベントス）種は、どのような深度・水平分布を持ち、また何がそれらの分布を規定するのか？ 日本海溝・千島海溝で得られた貝類試料についてDNA配列取得と形態解析を行い、この謎に迫ります。	
2	小畑 元（教授） 乙坂重嘉（准教授）	3月14日から4月5日までの間の2日間、日程は希望者との協議の上、多少移動することも可能。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	5名	海水及び海洋粒子中の微量元素・同位体分析	海洋における微量元素・同位体の循環についての基本的な知識を学習するとともに、分析法について、実際の分析装置を使用しながら練習を行う。	<a href="http://co.aori.u-tokyo.ac.jp/mic/">http://co.aori.u-tokyo.ac.jp/mic/</a>
3	佐藤正樹（教授） 宮川知己（准教授） 大野知紀（助教） 高須賀大輔（特任助教）	2024（令和5）年3月初旬～4月初旬の期間の間の2日間、日程は希望者との協議の上、決定します。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	6名	全球非静力学大気モデルNICAMによる数値実験	全球非静力学大気モデルNICAMの方程式系・差分法・構造の理解、およびNICAMを用いた台風等の数値実験、解析を行う。	<a href="https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/satoh/index-j.html">https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/satoh/index-j.html</a> <a href="https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/nicam/index.html">https://cesd.aori.u-tokyo.ac.jp/nicam/index.html</a>
4	兵藤晋（教授） 神田真司（准教授）	3月後半あるいは4月上旬の連続する3日間の予定。日程は希望者と協議の上決めます。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	5名	魚類のホルモン制御機構の細胞～個体レベルでの解析	サメやメダカなどの魚類を用いて、エコー検査や解剖観察、血中ホルモン濃度の分析、遺伝子組み換え技術・神経・内分泌細胞のリアルタイムイメージングなどを通して、魚類のホルモンを研究する手法を学ぶ。	<a href="http://physiol.aori.u-tokyo.ac.jp/seiri/">http://physiol.aori.u-tokyo.ac.jp/seiri/</a> <a href="http://physiol.aori.u-tokyo.ac.jp/kanda/">http://physiol.aori.u-tokyo.ac.jp/kanda/</a>
5	伊藤幸彦（准教授） 松村義正（助教） 干場康博（特任助教） 伊藤進一（教授） 小松幸生（准教授）	3月27日～3月29日の3日間程度（日程は希望者との協議の上で決定します）。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	10名	数値モデルで気候変動が海洋生態系に与える影響を調べてみよう	数値モデリングを用いた気候変動の影響評価を体験します。 (1) 粒子追跡モデルによる卵仔魚やプラスチックの輸送シミュレーション (2) 地球温暖化影響下での卵仔魚輸送シミュレーション (3) モデル結果データ解析	<a href="http://lmr.aori.u-tokyo.ac.jp/feog/index.html">http://lmr.aori.u-tokyo.ac.jp/feog/index.html</a>
6	小川浩史（教授）	3月中旬～4月初旬までの2日間、日程は希望者との協議の上、多少移動することも可能。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	3名	海洋における炭素・窒素・リンのサイクル	海洋における炭素・窒素・リンのサイクルの理解から、気候変動や水産資源の問題を解き明かす。講義とディスカッションおよび、海水試料の分析の見学（一部体験）	<a href="http://bg.aori.u-tokyo.ac.jp/">http://bg.aori.u-tokyo.ac.jp/</a>
7	西部裕一郎（准教授） 平井惇也（助教）	3月27日～4月5日までの連続する3日間（土日除く）。日程は希望者と協議の上で決定します。	大気海洋研究所（柏キャンパス）	4名	海洋動物プランクトンの多様性と群集構造を探る	海洋動物プランクトンの多様性・群集構造についての基礎的な知識を習得するとともに、野外試料の顕微鏡観察とDNAバーコーディングに基づいた群集構造解析を行い、一連の研究手法を理解する。	